

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

十勝岳では、本日（4月20日）14時56分頃に振幅の大きな火山性地震が発生し、その後、振幅の小さな火山性微動を観測しました。また、これら一連の震動と同期して、62-2火口方向が下がる傾斜変動がみられました。この前後で各火口の噴煙・噴気の状態など、火山活動に特段の高まりは認められません。

十勝岳では、62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺で噴煙・噴気が多く、熱活動が活発な状態が続いています。今後の火山活動の推移には注意が必要です。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○活動概況（図1～6）

十勝岳では、本日（20日）14時56分頃に62-2火口付近の浅いところを震源とする振幅の大きな火山性地震が発生し、その後、継続時間約3分間の振幅の小さな火山性微動を観測しました。これら一連の震動と同期して、62-2火口周辺の傾斜計では火口方向が下がる傾斜変動を観測しました。

監視カメラによる観測では、この火山性地震及び火山性微動の前後で各火口の噴煙の状態に特段の変化は認められません。

62-2火口付近浅部を震源とする火山性地震は20日10時頃からやや増加していました。この火山性地震及び火山性微動の発生後に特段の活発化は認められていません。

○活動評価

62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では、噴煙・噴気が多く、特に62-2火口ではごく微弱な発光現象が時々認められるなど熱活動が活発な状態です。また、62-2火口付近のごく浅い所を震源とする一時的な地震増加、火山性微動及びこれらと同期したわずかな傾斜変動が時々観測されています。今後の火山活動の推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

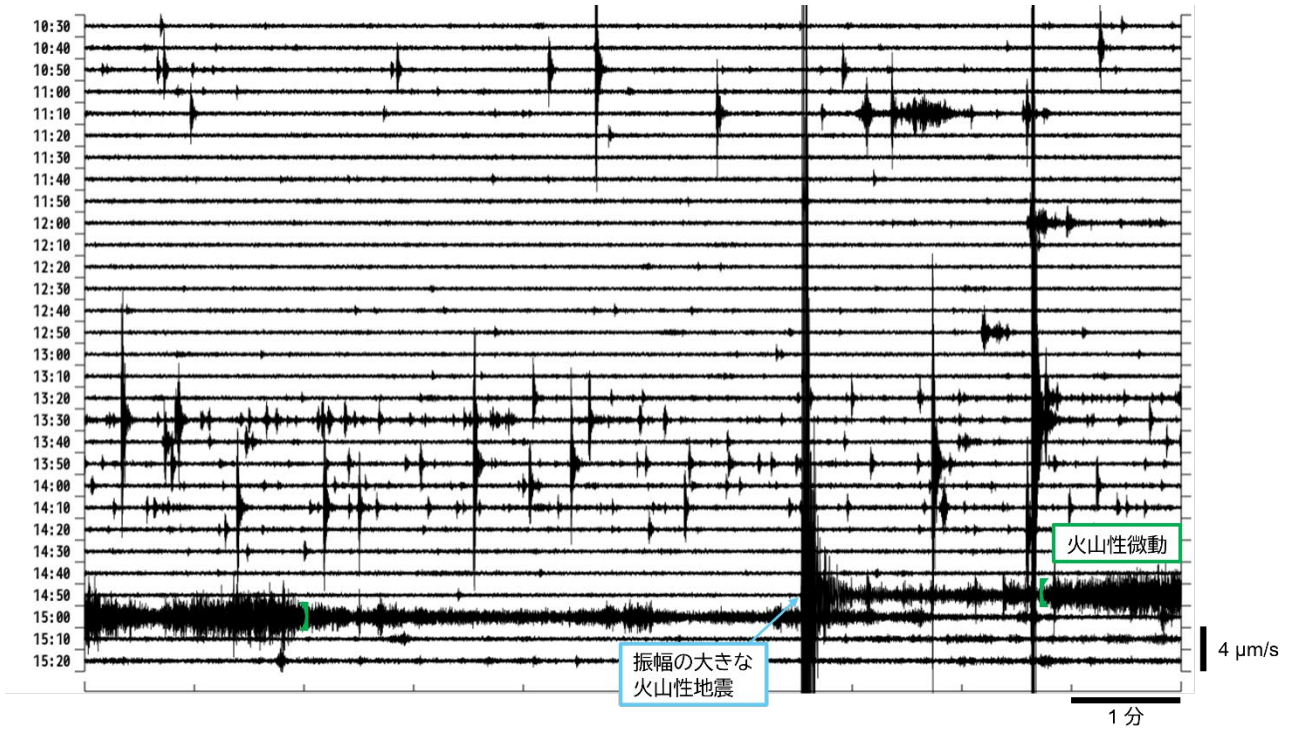


図1 十勝岳 避難小屋東観測点の上下速度波形（4月20日10時30分～15時30分）

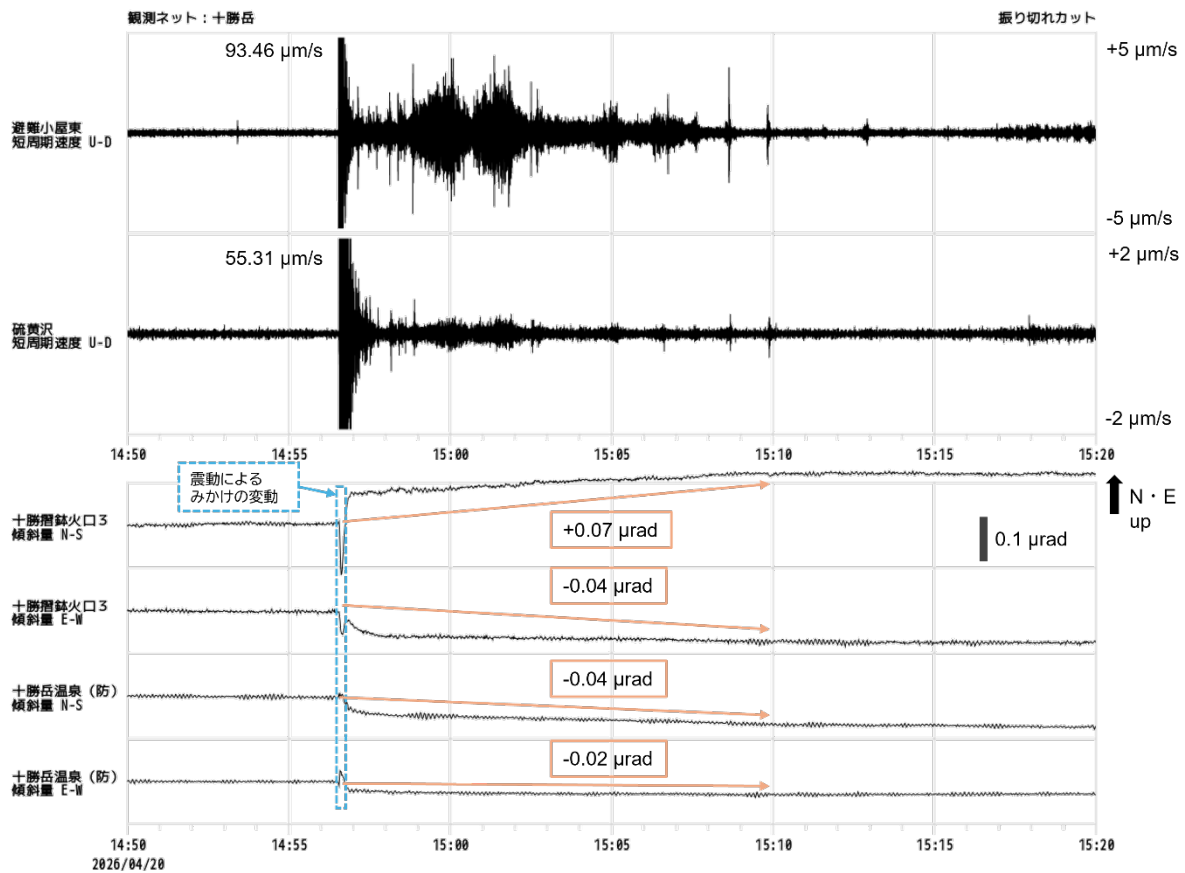


図2 十勝岳 14時56分頃に発生した火山性地震と火山性微動及び傾斜の状況
(4月20日14時50分～15時20分)



図3 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況（白金模範牧場監視カメラによる）及び火口周辺図

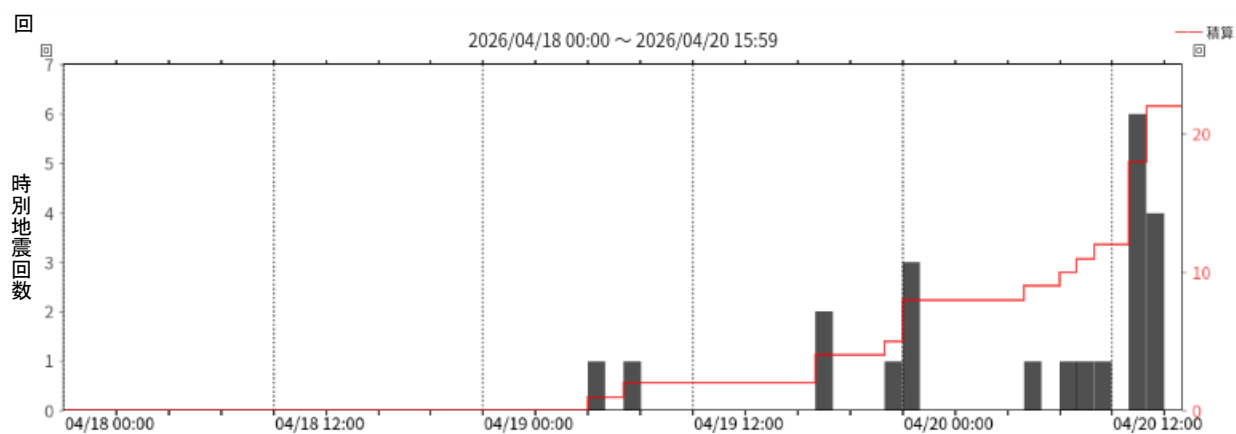


図4 十勝岳 火山性地震の特別回数（4月18日00時～20日16時（速報値））

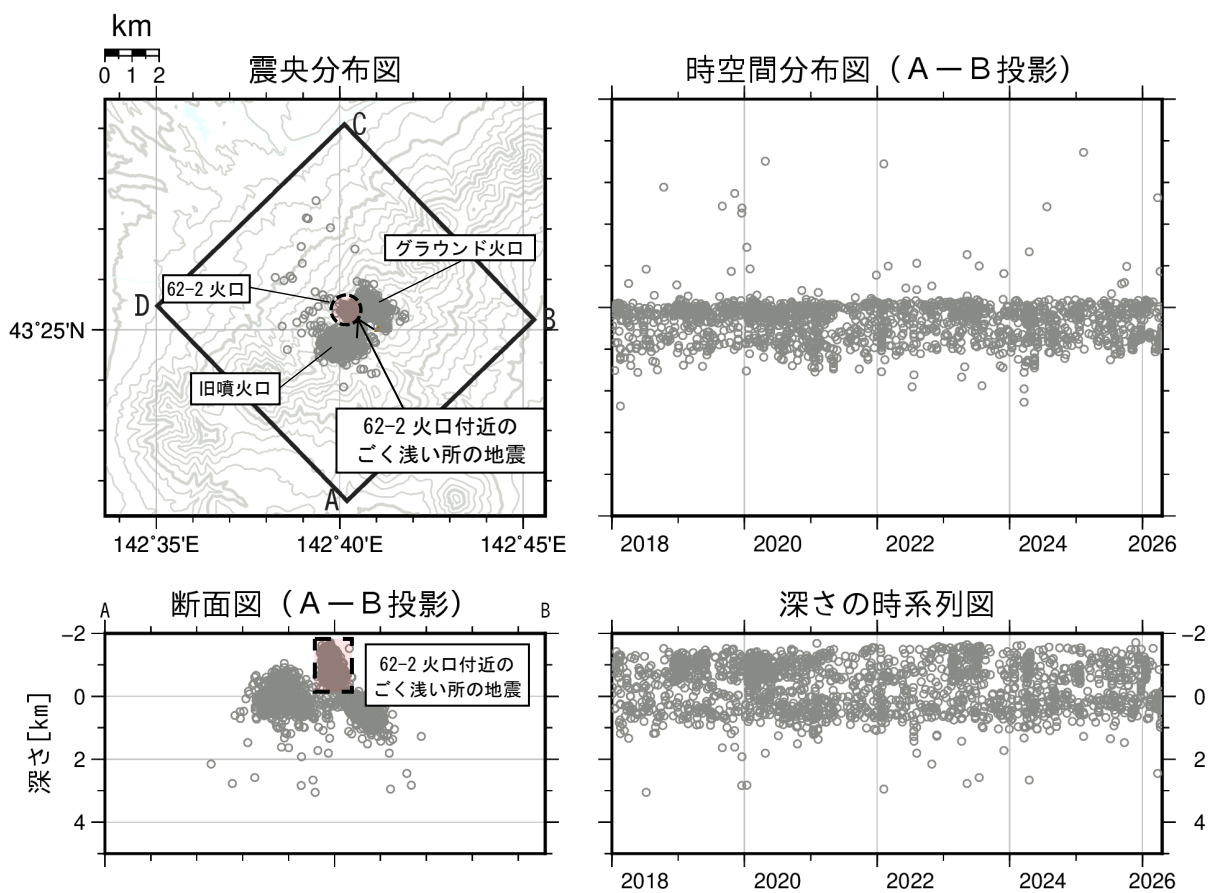


図5 十勝岳 火山性地震の震源分布 (2018年1月1日~2026年4月19日)
・火山性地震は、主に 62-2 火口付近のごく浅い所で発生しています。

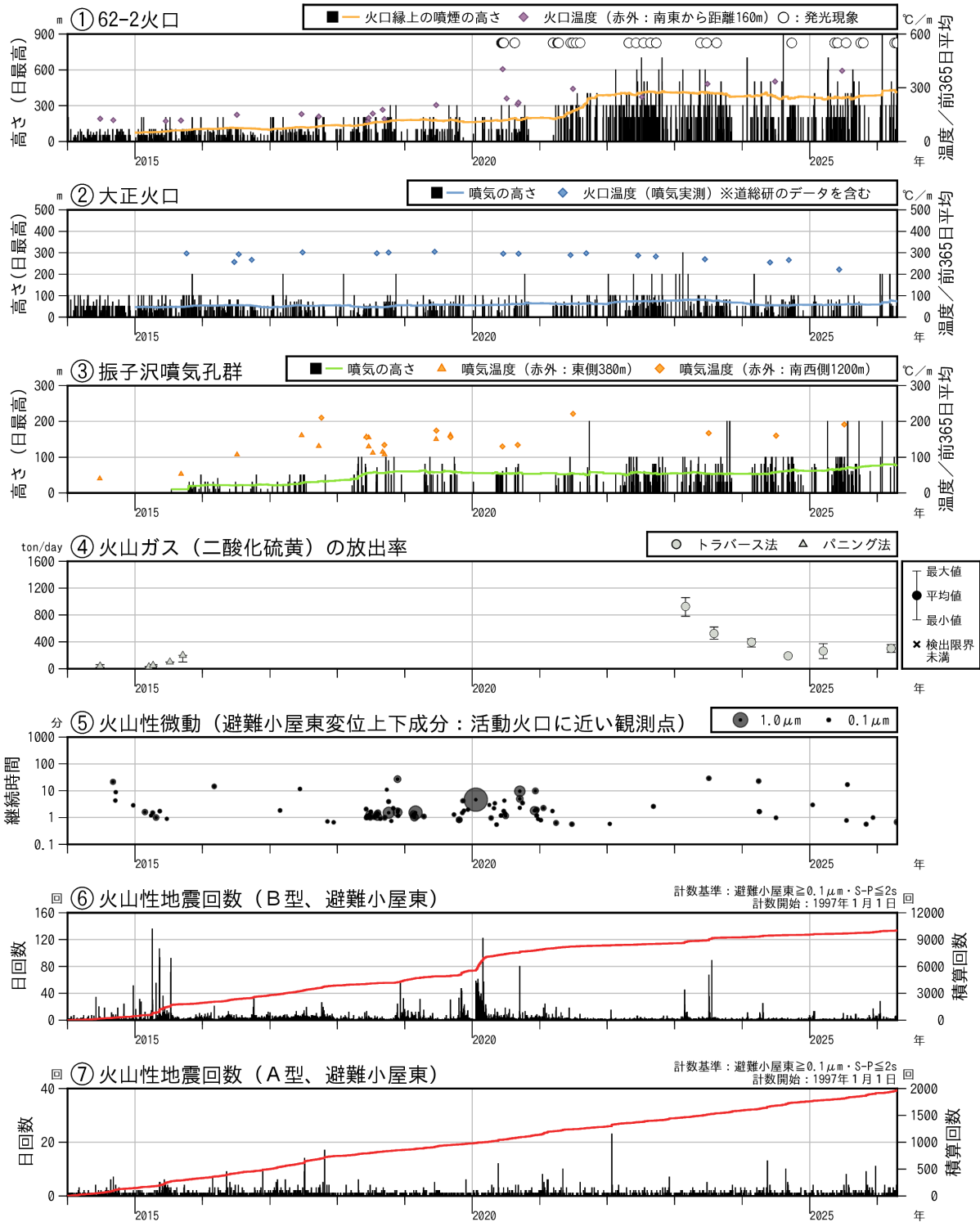


図6 十勝岳 火山活動経過図 (2014年1月～2026年4月19日)

⑥は主に62-2火口付近のごく浅い所(図5参照)で発生したと推定されるB型地震の回数、
⑦は主にその周辺で発生したと推定されるA型地震の回数を示します。

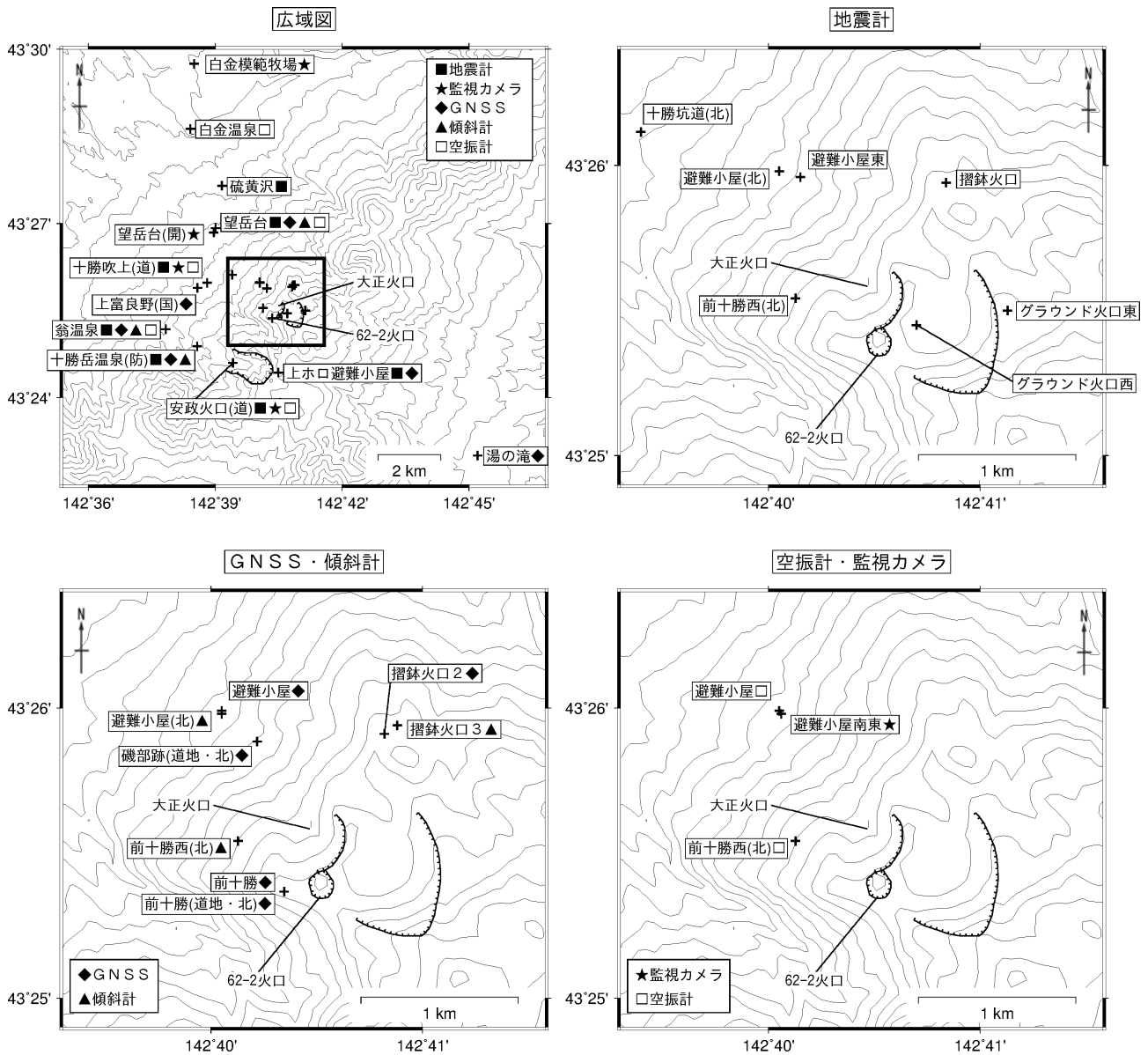


図7 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

十印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(開) : 国土交通省北海道開発局

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所